



教育コラム 国立大学法人『大分大学附属図書館』の賢い使い方

検索システムで広がる図書館ライフ



国立大学法人 大分大学
研究・社会連携部学術情報課
山崎 信広 課長



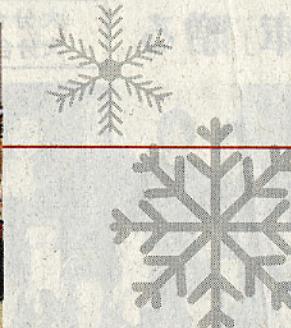
大分大学ホームページ <http://www.oita-u.ac.jp> から
「附属施設・センター等」→「附属図書館」→「資料検索」
へ進むと、様々な検索システムが利用できます。

大分大学の図書館は約20年前から一般の方々に開放しています。今では、年間で1,400人以上的一般利用があり、近くに住む高校生や中学生をはじめ、年配の方々など、2歳から80代まで幅広い年齢層の方に利用されています。大学図書館は、専門書が多いので、特に調べものをしたい方には有効利用してほしいですね。

ところで、大学の図書をホームページで検索できることをご存じですか？ 大分県内の4大学（高専を含む）の図書を検索できる「横断検索」、さらに全国の大学の所蔵する図書のデータベース「NACSIS WebCat（ナクシス ウェブキャット）」の検索もできます。大分県立図書館との「総合貸借システム」で、大分大学の図書を県立図書館で借りたりもできるんですよ。

図書館をより身近なものにしてくれる、これらのシステムもぜひチェックしてみてください。図書館利用の幅がきっと広がるはずです。

子どもと大人の世界 心をつなぐ絵本の世界



※教育インタビュー

大分大学附属図書館 読み聞かせボランティア

井上 美和子さん

みなさん、ご自分のお子さんと一緒に笑ったり泣いたり、驚いたりと、心を共有できる時間や空間を大切にしていると思います。絵本を通して子どもと大人の心と心が自然に通い合う、そんな温かい時間を運んでくれるのが読み聞かせの魅力ですね。読み聞かせは、言葉の発達や創造力の育成などさまざまな学習効果が認められていますが、私自身、読み聞かせを行うことで、子どもも大人も心が満たされることに何よりも意義を感じています。

「読み聞かせ」には、読む時の声や間の取り方など、読み手それぞれの表現が違うため、同じ絵本でも全く違う楽しみ方ができます。同じ人が同じ本を読んでも、その日、その時によって表現が変わりますから、子どもは飽きることがないんですね。「読み聞かせ」は、た

だ楽しいだけではなく、本の楽しみ方を子どもたちに教えてくれます。だから、ぜひ親も参加して、子どもと一緒に「読み聞かせ」の楽しさを感じてほしいです。

私は、こちらの図書館で複数の子どもに対して読む、集団読み聞かせを行っていますが、やはり親子間で行つてほしいですね。読み聞かせをする場合、絵本に書かれている「対象年齢」をあまり気にしないでください。やさしいものから徐々に楽しむことが大切です。そして、義務感からするのではなく、子どもにも大人にも、時間と気持ちにゆとりがある時に使うのがポイント。そのゆとりから心温まる空気が生まれ、親子の絆を深めてくれるに違いありません。クリスマスはご家庭で「読み聞かせ」をしてみませんか？



▲「読み聞かせ」を始めたのは、約10年前。お子さんが通っていた小学校のPTA活動で、読み聞かせサークルの立ち上げに参加したのがきっかけ。現在は、大分大学附属図書館や小学校で読み聞かせを行はほか、近所に住む子どもたちのために、自宅の「けやき文庫」を開設している

大分大学附属図書館／読み聞かせの日程

- 12/17(土) 14:00～ ● 1/28(土) 14:00～
- 2/25(土) 14:00～ ● 3/18(土) 14:00～

井上さんが選んだ、クリスマスにおすすめの絵本

- ぐりとぐらのおきやくさま
【中川李枝子 文、山脇百合子 絵：福音館書店】
- クリスマス・イブのおはなし セット
【長尾玲子 作：福音館書店】
- サンタクロースってほんとにいるの?
【てるおかいつこ 文、杉浦範茂 絵：福音館書店】

● 次回は平成18年1月21日(土)
朝刊の掲載予定です

たかえ

タ

イ

ム

タ

TAKAE
NEW TOWN
2005.12.Vol.2

「高江ニュータウン」から、あなたに贈る情報紙